

令和4年度 第2回白馬村図書館協議会 議事要旨

日時：令和5年2月9日（木）15:45～17:20

場所：白馬村保健福祉ふれあいセンター 2階 学習室

区分	氏名	所属	出欠
委員	富山 正明	白馬村社会教育委員長	○
	横川 秀明	白馬村公民館長	○
	本多 希	白馬高等学校	○
	篠崎 千恵	白馬南小学校	○
	高橋 英子	公募委員	○
	澤 清美	公募委員	—
	木曾 寿紀	公募委員	○
	嶋田 多希	公募委員	○
アドバイザー	篠田 尚利	県立長野図書館	○
事務局	松澤 宏和	生涯学習スポーツ課長兼図書館長	○
	松沢 由美子	白馬村図書館司書	○
	大坪 裕子	白馬村図書館司書	○
	大熊 大智	白馬村図書館司書	—
	山岸 由美	白馬中学校図書館司書	○
	海端 弥生	白馬北小学校図書館司書	○
	渡邊 宏太	生涯学習スポーツ課生涯学習係長	○

※欠席した委員には後日会議内容を説明した。

1. 開会

松澤生涯学習スポーツ課長兼図書館長が開会を宣言した。

2. あいさつ

（富山委員長）

コロナ禍も3年が経過する中で、政府の方針も日常生活を取り戻す方向に向かっており、村内にも海外からの観光客が戻り始めている。図書館についても感染症対策を講じて運営してきたが、今後は通常の運営に戻っていくと思われる。多くの方にご利用いただくためにも、各委員から積極的にご意見を述べていただきたい。

3. 会議事項

(1) 白馬村図書館の運営について

(事務局)

これまで運営状況に関する数値的な資料を配布してきたが、今回は他に協議したい項目も多いことや、年度末が近づき次回の会議で令和4年度の実績を報告することなどを踏まえて、数値的な資料の提示や説明は省略させていただく。日々の運営状況について、口頭で説明申し上げる。

感染症警戒レベルに応じて対策を講じながら運営してきたが、現在は机のパーティションを設置しているくらいである。

来館者数については、コロナ禍前は15,000人程度であったが、この2-3年は10,000人を下回る状況が続いている。この冬は、海外からの従業員と思われるような人も来館され、拙い英語で対応したり、翻訳アプリなどを利用したりして、以前のような雰囲気に戻りつつあると感じている。スクールバスの運行も影響しているのか、放課後の小学生の来館については少ない状況である。

昨年度は、図書館ボランティアを募集したものの感染警戒レベルが上がり作業をお願いできなくなってしまったため、夏にお手伝いいただく機会を設けた。今年度も、再来週からの蔵書点検にご協力いただく予定である。

職員の関係では、「デジとしょ信州」に関連する全体会や利用者支援部会に毎月2回程度オンラインで参加している。その他にも、北アルプス地域や中信地区の会議、県の図書館大会等にも出席した。オンラインで会議や研修に参加できるありがたみを感じるし、対面で集えることのありがたみを感じる面がある。

(委員長)

原因はわからないが、確かに小学生は以前よりも少ない印象がある。長引くコロナ禍で生活のスタイルが変わってしまった部分もあるかもしれないが、今後の状況も注視しながら、必要に応じて運営について考える必要がある。

(委員)

受験シーズンを迎えているが、中高生などの学習利用も歓迎しているのか。

(事務局)

学習に利用いただいても全く問題ないが、小学生がいて賑やかな時間帯もあることや、換気を行うために寒い状況になることもあることから、それほど多くの学習利用があるわけではない。

(委員)

海外から訪れている方はどのような図書を手にとっているのか。

(事務局)

統計を取っているわけではないが、見ている印象だと、アジア系の方は日本語の一般書を手に取ることもあるし、洋書のコーナーを見ていく方もいる。日本語学習の本を求めて来る方もいるが、あまり充実しているわけではないため、デジとしよ信州を薦めたいときもあるが、利用対象者の条件を満たしていなかったり、英語の案内も備えていないため、難しい状況もある。

(2) 「デジとしよ信州」について

資料1「デジとしよ信州 利用統計」に基づき事務局から説明した。

(事務局)

「デジとしよ信州」の登録状況について、白馬村では1月末時点で67名が登録しており、他市町村と比較しても人口比ではそれなりに登録していただいている状況である。登録者数はリリース当初よりも少なくなってきたが、毎月少しずつ増えていて、毎月50冊以上は貸出している。40-60代が最も多く、10-20代にも利用していただけるよう働きかけたい。

(委員)

全県的には現時点での登録・利用状況をどのように捉えているのか。

(アドバイザー)

サービス提供開始時点では具体的な目標は設けておらず、これから数値目標を定めて取り組もうと検討を始めたところであるが、ひとまず順調にスタートしたという認識である。登録が落ち着いてきた状況であるが、メディアに取り上げられて増えたりすることもある。

全県的にも30-60代の登録・利用が多く、仕事などで忙しく一般的には図書館を利用しない世代であるため、帰宅後に読んでいただきたくようなケースが多いものと考えている。電子図書館のサービスを提供したことで生まれた良い変化だと考えているが、スマホ世代でもありGIGAスクールでそれぞれ端末を利用できる中高生など10代の利用が伸びていないのは課題である。英語の授業でも読み上げ機能を利用することなども可能であることから、個人利用だけではなく授業での活用なども検討している。基本的には市町村の図書館カードを利用してアカウントを作成することになるが、人口の多い市などでは子どもたちに一人ずつ図書館カードを発行するのも費用がかかるという話もある。小中学生が利用しやすいよう、学校図書館のID(利用者番号)を使ってデジとしよ信州のアカウントを作れないかという提案も受けたが、公共図書館を利用してもらいたいという想いもあるため、引き続き検討したい。

(委員長)

図書館を利用しない人たちが電子図書館を利用しているのは、とても良い側面であると感じるし、その先に図書館に足を運んでもらえるきっかけになりうると考える。70代以上の登録が少ないが、その世代は図書館を利用している人も多い。

(事務局)

図書館に来ていただいているシニアの方に何度か話をしてみたが、嫌がる人が多い。探している本が「デジとしよ信州」にあり、「使ってもらえればすぐに読めるのに…」と感じる場面もあった。

(委員長)

若い世代は抵抗がないと思うが、高齢者は画面の文字を読むことを好まない人も多い。

(委員)

高校では本を目当てに来る生徒よりも相談に来る生徒が多く、図書館のあり方や利用され方について悩んでいる。

(委員)

小学校では、感染症の影響で利用制限を設ける機会が多くあったが、来館回数を減らす代わりに貸出冊数を多くすることで対応し、本が好きな児童は状況を見ながら上手く利用していた。蔵書点検前に賞状がもらえる100冊を目指して駆け込みの利用も多い。

(委員)

マンガのようなものはインターネットで読んでいる生徒もいるかもしれないが、デジとしよ信州を利用して小説のようなものを画面で読むことには少しハードルが高いように感じる。中学生は本よりもインターネットで調べることが多く、図書館に来てタブレットを使ってインターネットで調べるだけのこともあり、必要な情報が得られないときにやっと図書館の資料が頼られることが多い。

(委員長)

インターネットで調べるだけでなく、本で調べることの意義や価値を感じてもらいたいし、デジタルツールとして上手く利用してほしい。

(委員)

授業で毎年使うような資料は学校の図書館に備えていることもあり、村の図書館にまで足を運ぶ機会や必要性があまりない。10代のデジとしよ利用が進まないこともそういった理由なのではないか。

(事務局)

デジとしょ信州のアカウントを作るためには、村の図書館の利用者カードが必要となるため、保護者の判断や協力というのも障壁になっているように感じる。

デジとしょ信州は海外のシステムをベースにしているため、利用しにくい面もあるかと思うが、広報部会や学校支援部会など様々な面から利用促進について検討していきたい。

(委員長)

授業の中で使っていくような形でないと、多くの子どもたちに広めていくのは難しいようにも感じる。

(委員)

授業で使うのであれば、学校の図書館ではなく ICT 担当者と連携して進めた方が導入しやすいように思う。

(事務局)

デジとしょ信州の選書については、4 回ほど希望を出す機会があり、山やアウトドアに関連する図書を推薦したころ、選書部会で多く購入していただき、県立長野図書館の森館長からも「白馬らしい選書をしていただいた」とのお言葉をいただいた。今後も機会があれば希望を上げていきたい。委員の皆さんにもどんな図書が読めるのか見ていただきたい。

(アドバイザー)

市町村の皆さんから希望を伺い、県立で取りまとめて選書部会で決定してもらうというプロセスになっている。今後も積極的に意見を出してほしい。

(3) 資料収集・寄贈受入・除籍基準について

資料 2 「資料収集基準(案)」、「寄贈図書受入基準(案)」、「資料除籍基準(案)」に基づき事務局から説明した。

(事務局)

これまで内規として運用してきたが、改めて正式に規定したいと考えているため、意見を伺いたい。

資料収集基準 第 3 条の「障がい者用資料」について、白馬村図書館ではあまり収集できていないが、デジとしょ信州では「アクセシブルライブラリ」として読み上げ可能な資料を提供できるよう準備を進めている。地域のニーズ把握にも努めながら、白馬村図書館でも参加を検討したい。また、他の市町村の事例も参考にしながら、「白馬の歩み」など村誌のデジタル化も取り組んでいきたい。

これまで蔵書冊数が少なかったこともあり、積極的に除籍していなかったが、閉架書庫

もいっぱいになってきたため、適正管理のために除籍作業を進めている。亡失・不明資料はこれまでに68冊あり、年4-5冊程度という状況である。過去には7年ぶりにポストに返却された資料もあるが、内容の鮮度なども踏まえて5年を目安にしたい。

白馬新聞は永年保存しているが、大糸タイムスや信濃毎日新聞は市立大町図書館等でも保管されているため1年としたいが、雑誌については週刊・月刊など発刊頻度が違ったり内容も幅広いため一律に定めるのが良いか悩ましい部分がある。

寄贈図書をいただけるのはありがたいが、不用図書を持ち込まれることも多く、ある程度の線引きをして受け入れたい。自費出版や自分史など一般流通していないものも、地域に関係ない場合はお断りしたい。

(委員)

一般的に流通しているものではなく、地域の古文書などのようなものを購入して保存するような手段や予算はあるか。文書館では間に書店に入ってもらいインターネットに流通しているものを入手したりもしている。

(事務局)

予算としては特に確保していないし、現状の図書費から捻出するのは難しい。地域の古文書等について情報を入手する機会もあまりない。

(アドバイザー)

県立図書館でも古本屋にあるものを書店を通して購入する場合もあるが、収集範囲をどう設定するかという判断も必要になる。一般的に古文書は博物館が収集する資料であり、MLA(美術館・図書館・博物館)連携に取り組む中でそれぞれの役割分担を考えることが望ましい。

著作権が切れているような古文書については、デジタル化して公開することも可能であるし、「こういった資料が博物館にあります」という情報を提供できれば図書館としての役割を果たすことができる。予算的な制約もあるため、全てを図書館でというよりは、役割分担を明確にして対応したら良いと思う。

(事務局)

「白馬村で保存すべき郷土資料」の範囲について、どこまでを取り扱うべきか悩ましい。白馬村に関する直接的な記述のあるものや、出身者の著書などは当然該当すると思うが、近隣の市町村の資料の取り扱いについてご意見を伺いたい。

(委員)

難しい問題だと思うが、基本的には村域に基軸を置く形で良いと思う。

(委員)

限られたスペースを有効に使うことを考えると、他の市町村の図書館に保存されている

ものはそれを紹介する形で良いのではないか。

(委員長)

広い意味で捉えると長野県の資料も郷土資料となる。「利用者のための郷土資料」という視点では、長野県や北安曇郡の資料も備えておくのは構わないが、「村の図書館の責務として保管する郷土資料」としては、映像や写真等も含めて白馬村に関連するものという考えで良いと思う。

近隣の資料については、本棚を見て「無い」と思われてしまうのではなく、上手く連携して他館の資料を紹介できるような取り組みもあると良い。

(委員長)

雑誌の保存年限を一律に取り扱うことについてはどうか。

(委員)

保管するのにかさばるもので、バックナンバーの利用頻度の低いものは除籍しても良いのではないか。

(事務局)

ビジネス誌などは時間が経つと内容が古くなるが、山やアウトドア関係、女性誌などは時間が経っても借りられることもある。

(委員長)

一律に期間を定めるのではなく、内容や利用者のニーズによって個別に定める形で良いのではないか。雑誌に限らず地域資料等についても、具体的に示してもらえれば意見を言いやすいため、次回の協議会で意見を出し合った上で決めてもらえば良いと思う。

(4) 令和5年度の事業方針について

資料3「令和5年度白馬村図書館事業計画(案)」に基づき事務局から説明した。

(事務局)

イベントを少しずつ増やしたり、中高生向けの図書館だよりの作成などを行っており、今後も継続したい。新たに中学・高校への100冊長期貸出を提案したい。アニメメディアを買っているが、図書館ではあまり手に取られていないため、中学や高校に長期貸出をしてはどうかと考えている。村の図書館にこんな本があるということを中高生に知ってもらうきっかけにしたい。

雑誌については、一部変更・追加して22誌を購入したい。女性向けの雑誌は人気があるため増やしたい。

(委員)

中学生にとって人気のある雑誌であるため、対応してもらえるとありがたい。学校からの貸出など具体的な利用方法は協議したい。

(委員)

今年度、「季節や時事に応じた特設展示」はどういったものを実施したか。

(事務局)

干支に困んだものや入学に向けたもの、母の日・父の日、七夕、ハロウィンなど 1-2 ヶ月程度で入れ替えて実施している。

(委員)

先ほど MLA 連携の話が出たが、資料館等と連携して展示物と関連書籍を併せて見せるようなことはできないか。

(事務局)

手に触れないような囲いなどをするスペースを確保できないため、預かった資料を適切に保管することに不安がある。新しい図書館になればそういったこともしていきたい。

(委員)

図書館ではわからないことを資料館につなぐようなレファレンスはあるか。

(事務局)

具体的に資料館につないだことはないが、どこに聞いたら良いかわからないような問い合わせはたまにある。図書館の資料も入力されていないものは検索できないので、個人の記憶が頼りになってしまう。

(委員長)

白馬村には博物館がないため、他の機関といっても役場くらいしかない状況である。利用者の求めに応じるサービスとして、今後の課題の一つと言える。

来年度は社会的にはコロナ前の状況に戻っていくが、利用者の状況も見ながら、柔軟に運営していただきたい。

(5) 白馬村図書館等複合施設の検討状況について

資料4「白馬村図書館等複合施設の検討状況(令和4年度 下半期)」に基づき説明した。

(事務局)

官民連携の調査、あそびまなびフェス、検討委員会、対話集会を実施してきた。

これまでの検討経過を踏まえて、基本計画(案)の見直しを行い、広く皆さんからご意見を伺いたい。

(委員長)

対話集会については、もう少し多くの住民に参加してほしい。

また、複合施設の議論ばかりしていて、図書館の中身を議論していないという指摘もあるため、新しい図書館のあり方についても今後検討していきたい。

今の図書館ではできることが限られるため、できるだけ早く施設が開館できるよう進めてほしい。

意見があれば随時事務局に届けてほしい。

4. その他

今回は、日程調整の上、5月か6月に開催する予定である。

汚損や水濡れによる弁済について、実物を示しながら意見を伺いたい。

5. 閉会

松澤生涯学習スポーツ課長兼図書館長が閉会を宣言した。